

校種・学年・教科等名：小学校・4年・社会科

実践名：「そのごみ、どうするの」

小学校第4学年社会科学習指導案

日 時：平成23年9月27日（火）

場 所：西瀬小学校 第4学年1組教室

授業者：教諭 池田 幸彦

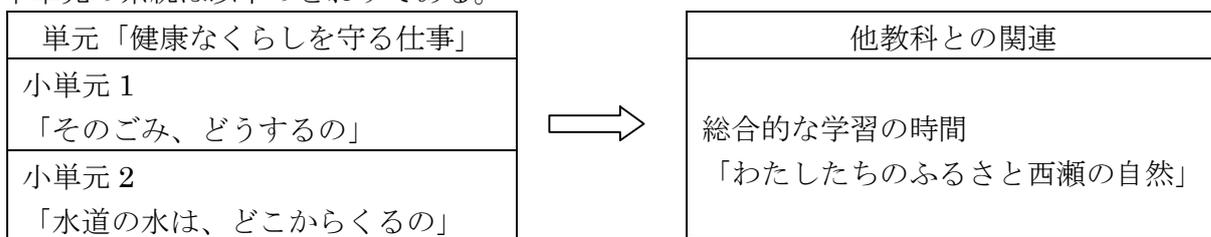
1 単元名

「そのごみ、どうするの」（わたしたちの人吉市）

2 単元について

(1) 本単元は、学習指導要領「内容」(3) のア及びイに該当する学習である。ごみの問題は大きな社会問題となっており、これからの社会を担う子どもにとっても、避けては通れない課題である。身近な家庭ごみの処理をはじめ、地域や社会全体で考えなければならない環境問題も視野に入れながら、限りある資源の再利用がこれからの大きな課題であることに気づかせたい。また、子どもが自分たちにできるごみの減量化や、リサイクル・リユースを行うなど、日常生活において環境問題に関心を持って生活する意識を育てたい。

(2) 本単元の系統は以下のとおりである。



(3) 児童の実態は以下のとおりである。(在籍数22人)

社会科について	好き()	どちらでもない()	嫌い()
ゴミに対するイメージ	もったいない() リサイクルできる()		くさい・きたない() いやなもの・迷惑() 捨てるもの()
ゴミの分別について	分別を心がけている()		考えずに捨てている()
出したゴミはどこへ行くか知っているか	クリーンプラザ() ゴミ収集場() リサイクル()		知らない() 自分の家で燃やす() トラック()

本学級の児童は、社会科に対して約半数が好感を持っており、調べ学習に対しても積極的に取り組むことができる。また、ごみに対するイメージは、マイナスのものが多く、もったいない、リサイクルできる物という意識はあまり根付いていないようである。しかし、出したゴミがどこへ行くかという質問に対しては、「クリーンプラザ」と答える児童がほとんどであった。以上の実態を踏まえて、ごみの問題は、自分たちの生活に直接かかわっているということを認識させ、身近な課題としてとらえ、主体的に課題を解決していくことができるような調べ学習を効果的に授業に取り入れる工夫をしていきたい。

(4) 指導にあたっては次の点に留意する。

① 社会科教育の視点から

ア ごみ問題を自分たちの身近な問題として捉えることができるように、家庭との連携を十分に図り、事前にごみ調べをさせたり、ごみ出しの手伝いなどの児童の生活体験を通して、課題を得ることができるようにする。

イ 調べる活動では、調べ方を教師側が例示し、資料活用となる図書資料活用指導、インターネットの活用の指導を行う。

ウ ごみ調査の結果から得た情報を把握させるための手立てとして、グラフを作成し、視覚的に把握できるようにする。

エ 調べたことについて、パソコンを利用してまとめ、発表することで、パソコンの技能を高めて自信を持たせるとともに、情報をより多くの人に伝えることの便利さや楽しさを感じることができるようになりたい。

② 情報モラル教育の視点から

ア 本時は、情報モラル指導モデルカリキュラムにおける分類3「安全への知恵」e2-1「情報には誤ったものもあることに気づく」の視点から授業を展開する。

イ 本時は、社会科の目標に情報モラルの内容を関連づけて授業を行う。調べ学習をする際、インターネット情報の便利さだけでなく、実際に見て調べることも大切であることをトピック的に取り扱う。

ウ 他教科の中でも、インターネットや図書資料を適切に活用しながら、学習の内容を進めていけるように、情報モラルについての指導を取り入れたい。

③ 人権教育の視点

ア 自分の考えを、自信を持って発表できるような支持的風土づくりに努める。

イ 他の人の意見も尊重しながら、ともに学習しようとする態度を育てる。

ウ 物事を自分自身のことに置き換えて考え、自分を大切にすると同時に他の人を尊重する態度を養う。

3 単元の目標と評価規準

単元の目標	毎日のくらしから出されるごみの処理に関心を持ち、燃えるごみや燃えないごみ、資源ごみなどの行方、また、市のごみ減らし対策などについて調べ、市のごみ対策は計画的に工夫を加えながら進められていることや地域の人々の協力が欠かせないことを考えることができる。
関心・意欲・態度	・燃えるごみの処理やリサイクルの仕組みやごみを減らす運動に関心を持ち、進んで調べることができる。 ・ごみを減らす運動に関心を持ち、分別回収に協力したり、減量化に参加し積極的に行動することができる。
思考・判断	・ごみの収集や処理の活動を調べて、減量化運動の推進の必要性を考えることができる。 ・ごみの収集や処理、減量化、リサイクル運動を、健康な生活の維持と関連づけて考えることができる。
観察・資料活用・表現	・写真やグラフ、表をもとにして、ごみの問題の現実を調べることができる。 ・調べたことをもとにして、自分たちにできるごみの減量化を提案することができる。 ・ごみの減量化について計画を立て、調査することができる。
知識・理解	・地域の人々が協力し、計画的にごみの処理やリサイクル活動をしていることがわかる。 ・ごみの減量が大切なことがわかる。

4 指導・評価の計画

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価項目（方法）
1	1	毎日のくらしから出るごみにはどんなものがあるか、また、ごみの出し方について話し合い、学習の問題をつかむ。	事前にごみ調べカードを作成し、家庭で出たごみの量を調べさせておく。	自分たちの市のごみ処理について関心を持ち、自分なりに課題持つことができる。 (ワークシート)
	1	調べる計画を立てる。	グループごとに分担して、調べる計画を立てる。	学習の問題について調べることや調べ方を考えることができる。 (ワークシート)
2	2	もえるごみのゆくえを調べる	学校周辺のゴミ出し日、収集時間をあらかじめ調査しておく。	燃えるごみはクリーンプラザで処理されており、多くの力やお金がかかっていることがわかる。 (観察・ワークシート)
	2	もえないごみのゆくえを調べる。	焼却後に出た灰や、燃えないごみは市の最終処分場で処理されていることもおさえる。	最終処分場について知り、ごみを減らすための工夫や努力の必要性に気づいている。 (観察・ワークシート)
	2	資源ごみのゆくえを調べる。	資源ごみの種類や出し方、資源ごみの再生についておさえる。	資源ごみはクリーンプラザで処理され、再生工場などへ送られていることがわかる。 (観察・ワークシート)
3	1 本時	水俣市のごみの分別について調べ、人吉市のごみの分別と比べる。	情報モラルの視点から、インターネットや資料で調べる際に気をつけることにふれる。	水俣市と人吉市のごみの分別について比べることができる。 (ワークシート)
	1	ごみを減らす運動について調べる。	今のくらしと昔のくらしを比べながら、家庭でできるごみの減量化について考えさせるようにする。	ごみの減量化に取り組んでいるわけを考え、ごみを減らすために自分ができることについて考えを持つことができる。 (ワークシート・発言)
4	2	学習のまとめをする。	ごみ減らしの発表会をひらく。	これまで学習してきたことをまとめることができる。 (発表・ワークシート)

5 本時の学習 (9 / 12時間)

(1) 目標

他の地域のごみの分別について調べ、人吉市のごみの分別と比べることができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動	主な発問と児童の反応	教師の指導と評価	備考
導入	7分	①人吉市のごみの減量化についてふりかえり、本時の課題を把握する。	○人吉市ではどんなごみの減量化に取り組んでいましたか。 ・「燃えるごみ」「燃えないごみ」「資源ごみ」の3種類に分別している。 ・生ごみの処理機をすすめている。 ・資源ごみは細かく分別している。	・前時までの人吉市のごみの減量化の学習をふりかえり、水俣市のごみの分別について調べることを知らせる。	ごみ分別カード
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 学習課題 人吉市と水俣市のごみの分別について比べよう。 </div>			課題カード
展開	33分	②水俣市のごみの分別について調べる。 ③調べたことを発表する。 ④インターネット情報の便利さと直接体験の大切さについて考える。	○この資料をもとに、水俣市のごみの分別について調べてみましょう。 ○1班は1～6番、2班は7～10番、3班は11～14番、4班は15～17番、5班は18～21番、6班は22～24番を調べましょう。 ・水俣市はたくさんの種類に分別してある。 ○調べて分かったことを発表してください。 ・人吉市よりも種類が多いぞ。 ・人吉市の資源ごみは14に分別してあるのに対して、水俣市では21に分別してある。 ・水俣市では生ごみも堆肥として再利用するんだ。 ○インターネットの情報から多くのことを調べることができましたが、実際に見てみることも大切です。	・水俣市のごみの分別に関する資料をインターネットで提示する。 ・児童にはインターネットで提示した資料と同じものを配布し、水俣市の分別について、ワークシートを活用して調べさせる。 ・24種類の分別ごみを6班にそれぞれ4種類ずつ割り振り、各自で調べさせる。 ・難しい言葉については教師が補足する。 ・人吉市と比べた発表をさせる。	PC 分別資料 ワークシート
				<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 評価 A:水俣市と人吉市のごみの分別について比べ、人吉市のごみの課題について考えている。 B:水俣市と人吉市のごみの分別について比べることができる。 支援:分類された種類や出し方のポイントなど項目に沿って調べるように支援する。 </div>	
終末	5分	⑤本時の学習を振り返り、次時への見通しを持つ。	○次の時間は人吉市のごみの減量化について考えましょう。	・人吉市でもできそうなごみ減量化の取組についてふれる。	

6 モデルカリキュラムの位置づけ

情報モラル	道徳、各教科・特別活動 他
a2：発信する情報や情報社会での行動に責任を持つ。	国語 伝えたいことを伝えよう「新聞記者になろう」 目的や読み手を意識しながら分かりやすく書く。
b2：情報に関する自分や他者の権利を尊重する。	道徳 心を開いて「貝がら」 2－(3) 友情・信頼「友達と互いに理解し、信頼し助け合おうとする態度を育てる。」 学級活動 「クラスのマーク「ピーチくん」 著作権とはどのようなものかを知り、人が作ったものや自分が作ったものを大切に作る気持ちを養う。
C2：情報社会でのルール・マナーを遵守できる。	道徳 ルール違反「雨のバス停留所で」 4－(1)規則の尊重・公德心「社会のきまりや規則の必要なわけを知り、進んで守ろうとする態度を養う。」
d2：情報社会の危険から身を守るとともに、不適切な情報に対応できる。	
e2：情報を正しく安全に利用することに努める。	社会 「そのごみ、どうするの」(わたしたちの人吉市) 資料を使って他の地域のごみの減量化について調べることができる。
f2：安全や健康を害するような行動を抑制できる。	道徳 度を過ぎさずに「エジソンとえいじ」 1－(1)基本的な生活習慣「度を過ぎさず、節度ある生活しようとする態度を養う。」 道徳 どうしたらよいか考えて「シュートボール」 1－(1)基本的な生活習慣「自分の健康について、どうしたらよいか考えて生活しようとする心情を育てる。」
g2：生活の中で必要となる情報セキュリティの基本を知る。	
i2：情報社会の一員として、公共的な意識を持つ。	学級活動 班活動や係活動などを友達と協力して行う。